

【R 1 8】 ノベル

『お嬢様教師の全裸男子下半身罰』 〔女教師と男子生徒二人の会話形式版〕

作：七条右京

【登場人物】

めいけい
「明慶学園高校」のお嬢様教師と男子生徒

- ・ かみじょう みずき
上条 瑞希：お嬢様教師
- ・ たなか はる
田中晴：男子生徒 1
- ・ さくらい ひなた
桜井陽向：男子生徒 2

○教室

数学の授業中の瑞希。

上条瑞希：

「ちょっとうるさいわよ」

「その二人、立つのよ」

授業中に私語をしていた、晴と陽向、その場に立つ。

瑞希：

「君達、後ろに来るのよ」

瑞希、晴と陽向を教室の後ろに連れて行く。

瑞希：

「ちょっと君達失礼ね」

「私の授業中に私語をするなんて、百万年早いわよ」

「いったい何考えてるのよ」

「問答無用よ」

「私が君達に罰を与えるわよ」

「私が誰だか知ってるわよね？」

「私の心一つで、退学にだって出来るのよ」

「君達には拒否権は一切ないのよ」

「だから私の言う通りにするのよ」

「いいわね」

「分かったら、返事をするのよ」

そのまま沈黙が数分。

瑞希、晴と陽向の唇を指で摘まむ。

「どうしたの？」

「なんとか言いなさいよ」

田中晴：

「先生、すみません」

「分かりました」

桜井陽向：

「ボクも分かりました」

瑞希：

「私ね、君達みたいに可愛い男のコの体に罰を与えるのが楽しいのよ」

「楽しみだわ」

「服を着たままじゃ出来ないから、裸になるのよ」

「全部脱いで、全裸になるのよ」

その言葉を聞いた女子からは、

「えっ、やだ、全裸ってパンツも脱ぐのよね？」

「おちんちん見えちゃうじゃん」

「私、おちんちん見てみたいわ」

「早く脱いで見せてよ」

などの言葉が飛び交った。

瑞希：

「さあ、早くするのよ」

晴と陽向、無言で服をゆっくり全部脱いで
全裸になる。

瑞希：

「それでいいわよ」

「気を付けの姿勢で、おちんちんをちゃんと見
せるのよ」

瑞希、晴と陽向の男性器をじっくり観察す
る。

今度は、指で男性器を摘まみながら観察す
る。

瑞希：

「男のコのおちんちんって面白いわね」

「おちんちん、いっぱい虐めてあげるわよ」

「先ずはその前にお尻からよ」

「君達、私の方にお尻を向けて、手を床に付け

て、お尻を突き出す姿勢をするのよ」

「お尻の穴を、見るわよ」

「田中君、指入れるわよ、力を抜くのよ」

瑞希、晴の肛門に指を入れて動かす。

晴：

「先生、あんまり動かさないで下さい」

「なんか変な感じです」

「なんか、出そうな感じです」

瑞希：

「絶対に出しちゃ駄目よ」

瑞希、肛門から指を抜く。

そして、その指を晴の鼻の近くに。

瑞希：

「ほら、君の肛門の臭いよ」

「ちゃんと嗅ぐのよ」

「どんな臭いがするか言うのよ」